

第 43 回 青志祭によせて

学校長 吉田 真治

今年度のテーマは“継”ですね。とても素晴らしいテーマだと思います。

残すところ2年となった三木北高校にとって、どのような目的をもって青志祭に臨むのか、生徒会の皆さんをはじめとして、よく考えてくれたテーマだと感じています。

では、このテーマ“継”について、生徒の皆さんは、具体的にどのような気持ちをこめて取り組みますか。

私は、2つの捉え方ができると思っています。1つは、“受け継ぐ”という気持ちです。これまで、先輩方の努力や、先生方・地域の方の支えがあつて、40年以上の歴史を経てきました。皆さんの取組が、「立志・自学・自律・共生」の校訓の精神や、ユネスコスクールとしての行動力などを発揮した「三木北らしさ」の表れとなるよう、ぜひ、頑張ってください。

もう1つは“引き継ぐ”という気持ちです。1年生はいませんが、来校された保護者・同窓生、学校評議員(地域)の方に、昔と変わらない「三木北らしさ」を心にとどめて帰って頂けるようにして欲しいのです。

最後に5月に卒業生の方の母校訪問(20名ほど来校)を行った際に、生徒の皆さんにメッセージを頂きました。その中から、多く頂いた内容を紹介します。

◇「今おられる先生・生徒の皆さん、最後まで三木北らしく頑張ってください」

(5回生)

◇「きれいに保たれている中庭・校舎を見て誇らしい気持ちになりました」

(9回生)

◇「思い出は永遠に残ります」「残り2年で閉校となってしまいましたが、今の一瞬を悔いの無いように思い切り楽しみきってください」

(13回生)

私は、当日来校された卒業生の先輩方が、母校の三木北高校を誇りに思い、口を揃えて閉校を惜しむ気持ちを表しておられたのが印象に残っています。

41・42回生の皆さんは、テーマ“継”が目指すところを、きっとよく理解できていると思います。当日に向けて、自ら考えて行動し、意義の深い青志祭にしましょう。